

地域公共交通の評価について

名古屋大学客員准教授

おでかけカンパニー代表 福本雅之

fukumoto@odekake.co.jp



公共交通トリセツ

地域公共交通のトリセツ（取組説明書）はじめました！
<https://text.odekake.co.jp/>

- コミバスや補助路線だけでなく、地域内の公共交通網全体の改善に取り組むことが市町村の責務
 - 地域内の移動における各モードの役割と位置づけ
 - 補助金はその中で使えるものを使う（補助金のあるものだけに取り組むのは×）
- 計画も評価も効率的に事業を実施し、説明責任を果たすために必要
 - 補助の増額や査定対応のためにやるものではない
- 評価はそれ自体ではなく、改善のために必要
 - 数値にとらわれるのではなく、数値の持つ意味を考える

地域公共交通計画における 評価

【必須項目】

§5-2

- 1 基本方針
- 2 区域
- 3 目標 ←
- 4 事業及びその実施主体
- 5 達成状況の評価
- 6 計画期間
- 7 その他必要と認める事項

【努力項目】

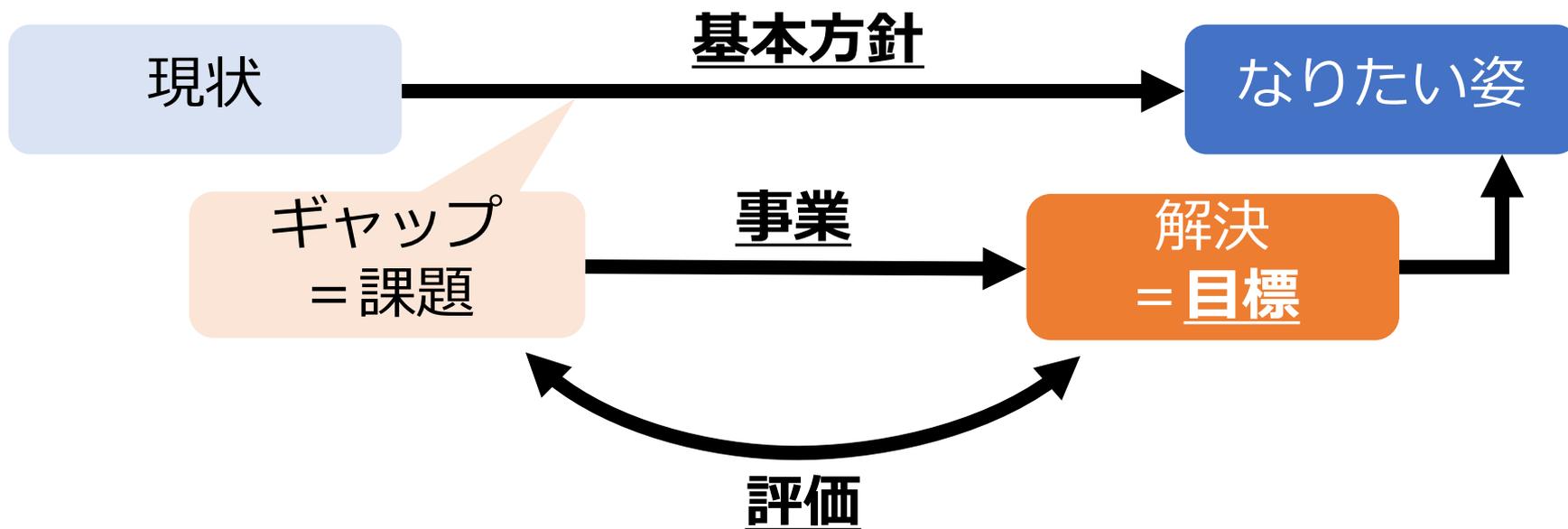
§5-3

- 1 資金の確保
- 2 立地適正化計画との連携
- 3 観光振興との連携
- 4 その他配慮すべき事項

§5-4

利用者数、収支などの
定量的なものが望ましい

※太字下線は法定記載事項



計画における評価の視点

一口に評価と言っていますが・・・

「計画全体の評価」と「個別事業の評価」
「進捗状況の評価」と「事業効果の評価」
「アウトプット評価」と「アウトカム評価」
「自己評価」と「第三者評価」
「定量的な評価」と「定性的な評価」

いろいろな切り口がある

地域公共交通計画の“評価”はどれ？
確保維持改善計画における“評価”は？

	進捗状況 の評価	事業効果 の評価
計画全体の評価	アウトプット	アウトカム
個別事業の評価	アウトプット	アウトカム

インプット

事業のためのリソース投入
事業に投入した人員・予算（工数）



アウトプット

インプットの結果出力されるもの
作成されたチラシ、イベント実施回数、
施設整備数、コミュニティバスの運行実績など



アウトカム

得られた成果
公共交通利用の増加、外出率の増加、
公共交通分担率の増加、交通事故件数の減少など

「客観的数値に基づいて判断」・・・よく聞きます

数字自体は事実だが・・・数字を解釈するのは人間

- ◆ その解釈は論理的か？
- ◆ 数値の算出条件は正しいか？
- ◆ 都合の良い数字だけを見ていないか？
- ◆ 割合で見るのか、実数で見るのか？

数字であっても主観的な解釈はいくらでもできる
定性的であっても論理的なアプローチはできる

ありがちな評価指標 年間利用者数 ○万人

- 根拠はよくわからないが現状より多めに設定
- 現状と同じであっても人口は減るので達成困難

理由がきちんと説明できれば問題ない

例)

財政出動の増額なく現行のサービスレベルを維持するためには○万人の利用がないと無理、など

- 路線再編したら利用者数が減ったので問題
- 収支率が低くて問題

➡ これだけが問題だと思っていることの方が
よっぽど大問題！

- ◆ 利用者数・収支率が向上
➔ 多くの市民が利用
- ◆ 本質は、基本方針に沿った運行目的が達成できているかどうか。その観点で見たとき、利用者数・収支率だけで評価することは適切か？

これは自体は良いこと

利用者数・収支率が良くなる = 改善とは限らない！

財政制約の厳しさ（と指標の算出しやすさ）から、公共交通施策評価を「収支率」で行いがち

収支率が高いならば行政が行う必要なし

- 事業の効率性（Inputに対してOutputがどれだけあるか）は求められるが、それを図る指標は収支率（≒採算性）だけではない（**1人あたり輸送コスト**などもある）
 - 収支率が上がったかどうかではなく、市民が**おでかけすること**で**豊かな生活**を送れるようになったかどうか大切
- 事業前後の効果を本質的な指標で評価する必要

運行目的によって指標は異なる
運行目的に合致した評価指標設定が重要

理想を追求しすぎてしまうと・・・

- ・ 評価指標が到底達成できない値
- ・ 算出不可能な数値を目標値に設定
- ・ 評価指標が多すぎて、算出に忙殺....

評価指標を算出することは目的ではない

評価指標の算出で事業の結果を表現し、その効果を考察することで、事業内容の改善につなげることが本当の目的

→ 評価できないような指標を設定したり、評価で疲れてしまうようでは本末転倒

計画に基づく事業の効果を適切に表現し、算出に無用な労力を要しない評価指標を

目標値は達成しなければならないか？

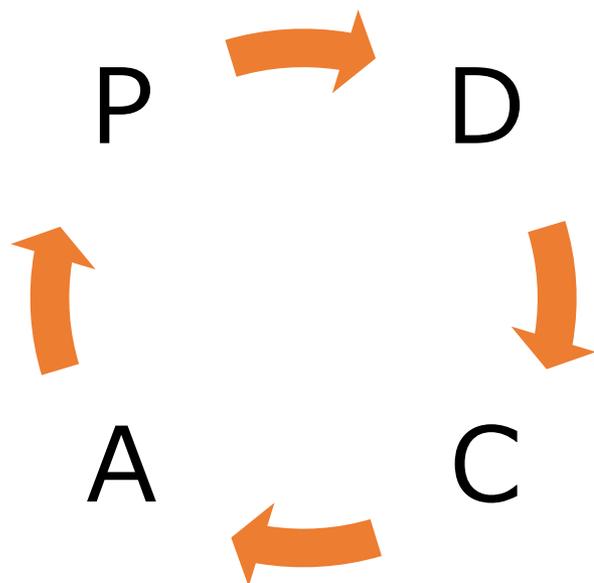
目標値は必達目標？努力目標？

達成困難な高みに向かって努力することが尊いか
低くても良いから達成することが望ましいか

必達目標にすべきもの、努力目標にすべきものが混在する場合も考えられる

必達・努力のいずれかを整理しておくべき

評価から改善へ



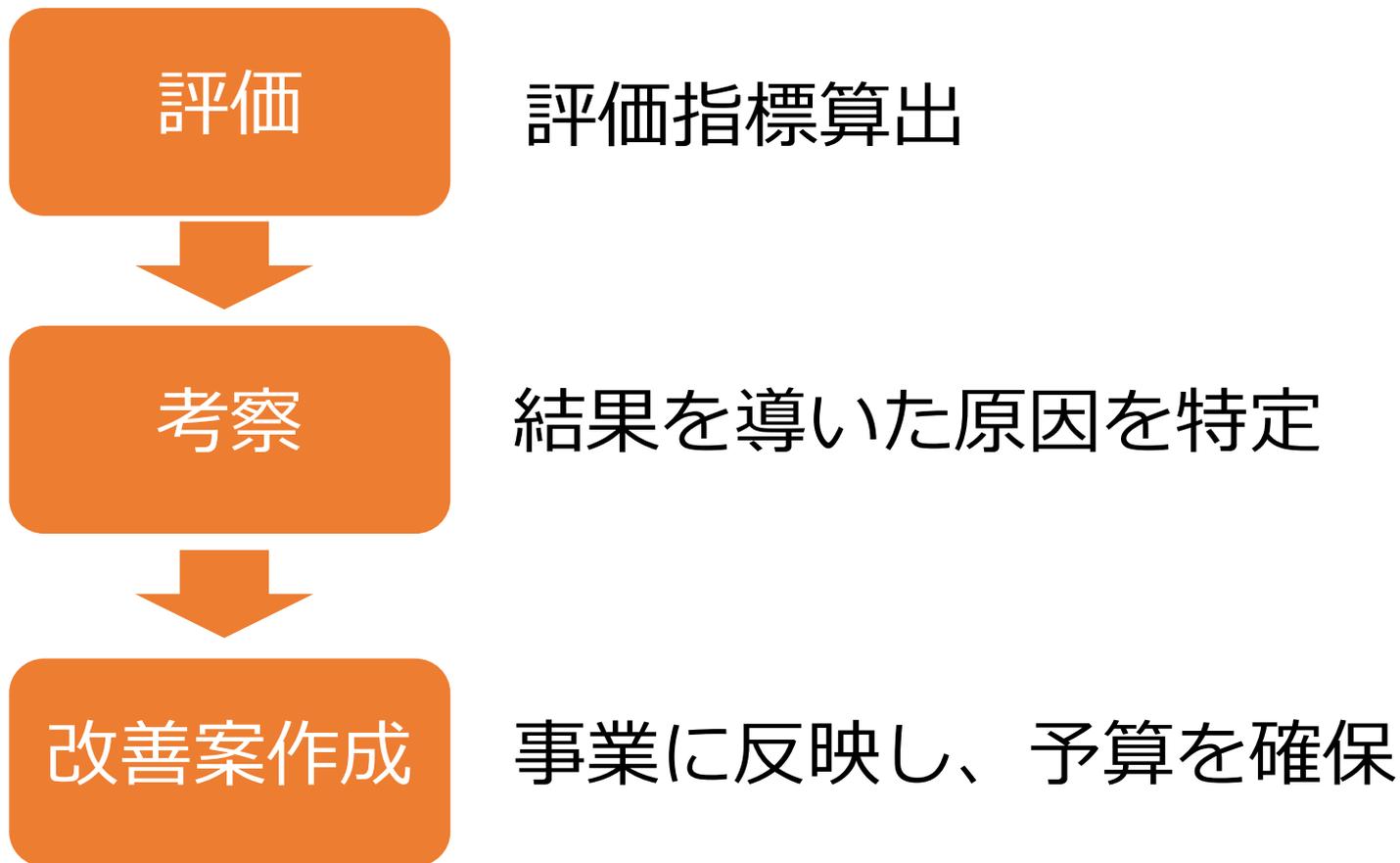
どこかで見たことのあるようなPDCAの図

計画(Plan)、事業実施(Do)、
評価(Check)、改善(Act)は密接不可分

ありがちな（悪い）例

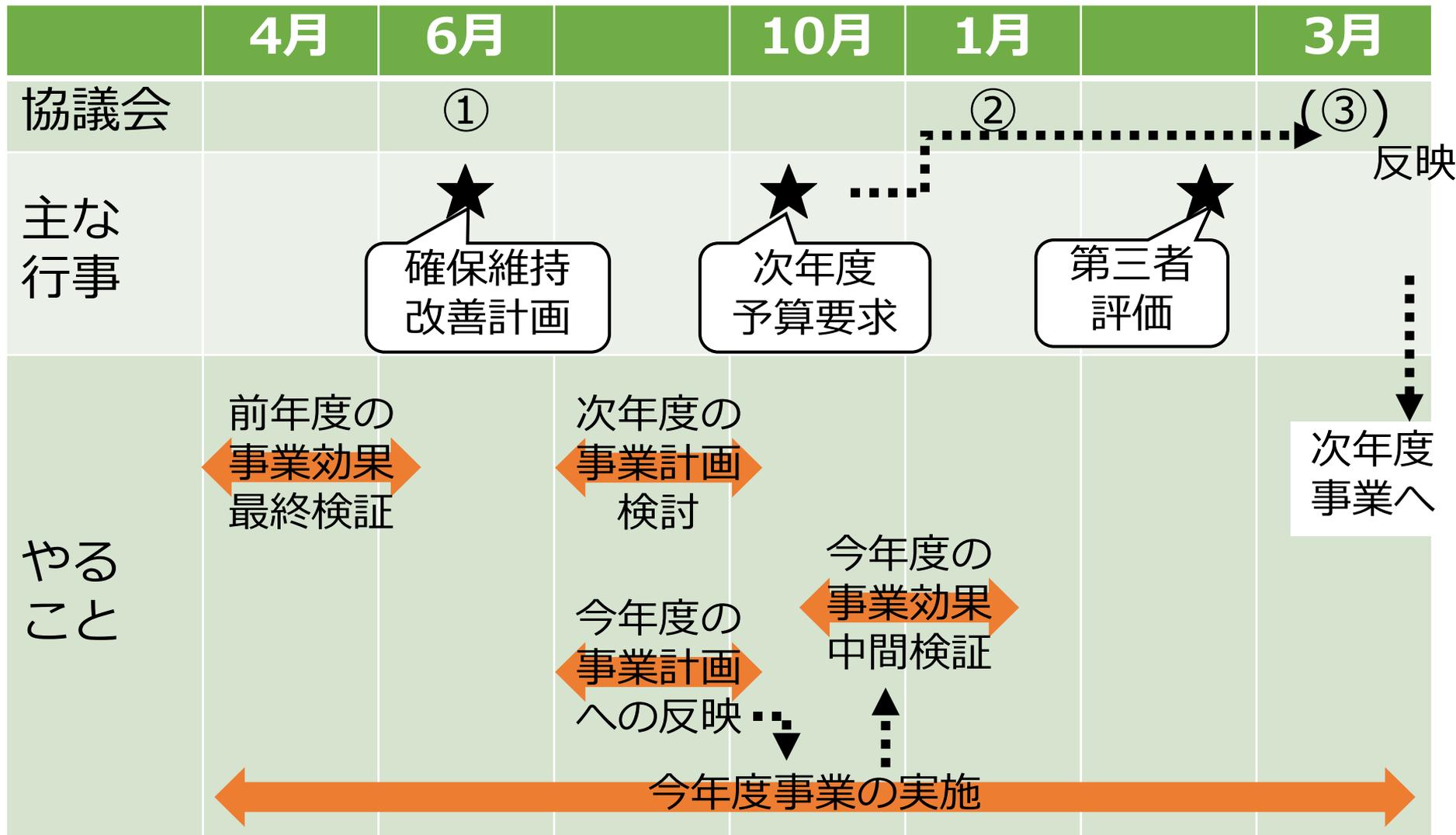
評価、改善に関する事項は左の図のみ
これはPDCAサイクルの説明の図であって、PDCAサイクルをどう回していくかという説明になっていない

事業に対する評価が正しく行えないと、
改善にはつながらない



刮目せよ！これが本気のPDCAの実践だ！

【年間スケジュール】



おわりに

- 目標と評価の関係を意識しましょう
- 年間スケジュールに組み込むことで、目標に向かって継続的に改善できるように

※ 太字下線は法定記載事項

